令和７年 第２３回 東京都知事は杯争奪「さわやか少年野球大会」

競技上及び審判上の注意事項

1．　**ベンチ**は抽選番号の若いチームが一塁側とし、**先攻後攻**は、両チームの主将がジャンケンで決める。

2．　**チームの集合**は、試合開始予定時間30分前とし、大会本部へ、登録書（選手名簿）原本、メンバー表4枚（直筆1枚[本部用]、と複写3枚[球審及び対戦チーム、自チーム用]）を提出する。開始予定時間に集合しないチームは、不戦敗とする。（登録選手が9名に満たない場合も同様である。）

　※メンバー表（打順表）は、大会より配布されたものを使用すること

　※二試合目以降の場合、前試合の本部で登録書とメンバー表を受取り、先攻後攻はその時点で決める、

　（メンバー表のチェックは当該試合本部で行う）

また、大会本部にて、監督・コーチ・選手は整列により、登録書原本と氏名・背番号の整合性の確認を受ける。

3．　**シートノック**は行わない。

・前試合一時間経過後から、バッテリー一組とコーチ一名でピッチング練習を可能とする。

（場所については、審判員の指示に従う。）

・前試合終了後、10分後を目処に当該試合を開始する。（その間にアップ、キャッチボールをする）

・試合前のバットの使用は、ベンチ前でのノックと素振りに限る。

4．　**準備投球**

投手（救援投手を含む）の準備投球は、初回に限り1分を限度として5球以内、次回からは3球以内とする。

5．　**イニング**

試合は６イニングとし、1時間30分を越えて新しいイニングに入らない。

6．　**コールドゲーム**

得点差によるコールドゲームは、4回終了時10点差、5回終了時以降７点差とし、降雨、日没などによる正式試合の成立は、5回完了時とする。

7．　**特別延長戦（タイブレーク方式）**

試合終了時点に同点の場合は、タイブレーク方式で勝敗を決する。再び同点の場合は、最大2回まで繰り返す。なおかつ勝敗が決しない場合は、両チームの最終メンバーによる抽選で決する。

※但し、決勝戦については、再び同点の場合、勝敗が決するまで繰り返す。(上限時間は2時間30分とする)

【タイブレーク方式】無死一塁二塁、継続打順で行う。

8．　**投手の投球制限**

一人一日70球以内（4年生以下60球以内）とし、70球に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。

※70球以内であれば他の守備についても再び投手に戻ることができることとする。

9．　申告による故意四球を認める。

10.　背番号は選手0～99番（主将は10番）、監督30番、コーチ29、28番に統一する。登録はすべて男女を問わず、選手登録は10名以上25名以内とする。

11.　試合中にベンチに入れる大人は、チーム代表者（引率責任者）・監督・コーチ2名・スコアラーの計5名以内とする。

12.　服装については、監督・コーチ・選手は統一のユニフォームを着用する。代表者・スコアラーは私服とし、必ずチーム統一の帽子を着用すること。

13.　抗議のできるものは、監督と当該プレーヤーとし、グランド内での指示は監督が行う。

14.　打者・走者・次打者・ベースコーチは、両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着用すること。

15.　捕手のマスク及び金属・ハイコンバットは、JSBBのマークの入ったものを使用すること。

16.　捕手は危険防止のため、レガーズ・プロテクター・マスク(スロートガード付)・ヘルメット・ファールカップを着用すること。投球練習時にもレガーズ・プロテクター・マスク(スロートガード付)・ヘルメットを着用すること。

17.　投手が変化球を投げることを禁止する。ペナルティーは「競技者必携」を参考とする。

18.　原則として「全日本軟式野球連盟規定の野球規則」を準用する。

19.　グランドルールは主催連盟（練馬区軟式少年野球連盟）審判部の指示に従う。

・総合運動場少年野球場において、危険防止のためA面の右翼手とB面の左翼手はヘルメットを着用し守備に就くこととする。(守備用ヘルメットは主催連盟にて用意するが、自チームのヘルメットを使用することも可能とする。)

投手の投球数制限の運用について

■投手の投球数制限

一人一日70球以内（4年生以下60球以内）とし、70球に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。

※70球以内であれば他の守備についても再び投手に戻ることができることとする。

「スポーツを通じた子どもの健全な成長をサポートする」子どもの権利とスポーツの原則、「学童野球の育成主義」に基づき、”医学的見地”“競技運営とチーム編成”を考慮し設定されています。

■投球数を数える運用

1.　担当者：

試合当該の各チームから1名ずつ、対戦相手チームの投球数を数える人員を協力いただく。（チームスタッフがベターだが、保護者の方でもよしとする。）

2.　方法：

得点版（めくるタイプ）を投球一球ごとに速やかにめくる。（ボークの時も投球していれば、数える。）

3.　設置場所：

試合本部席の各ベンチから見える位置に得点版（めくるタイプ）を設置する。

4.　投手が交代した場合：

別紙の「投手の投球数表」に背番号・投球数を記載し、得点版は“00”に戻し、交代した投手の投球数をカウントする。

以前に投球した投手が再び投手に戻り、更に交代した場合は、「投手の投球表」の当該投手の同じ行に投球数を記載する。

5.　ベンチから投球数について確認があった場合の処置：

試合当該ベンチのいずれかから球審に対して本部席投球数の確認があった場合、

→両チームの監督と本部席は、本部席で本部席とそれぞれ両チームスコアラーが数えた投球数を確認する。

→2者が同一数の場合は、多数決とし、

→3者すべての数が異なった場合は、本部席を正とする。

当該イニングで70球に到達しそうでない限り、いたずらにイニング途中で確認をしないこととし、イニング終了時の確認とする。

次イニングのプレイがかかった時点で、本部席投球数を正とする。

※タイマーは止めないので、それぞれ速やかに対処をすること。